

# 花水木

Sasaki Hanako

佐々木 花子 (74期)



燕岳からの展望

皆さんが「恩師」と聞いて思い浮かべるのは、どなたの顔でしょうか。また、その方に最後に会ったのは、いつでしょうか。

## 人生、山あり谷あり

昨春、友人に誘われて屋久島縄文杉・宮之浦岳に挑戦したことをきっかけに、今夏までに富士山、澗沢、新穂高、尾瀬、燕岳、白馬岳、磐梯山を訪れました。山中は電波がなく強制的にPCやスマホから解放されるので、ひたすら歩を進めることで頭を空っぽにしたり、はたまた、頭の中で複雑になっていたことを静かに整理したりすることができます。山を下り切る頃には心身ともにすっきりしていることを実感してから、すっかり登山の虜になりました。

## 山登りに欠かせないもの

そんな登山中、自分のこれまでについて振り返ると、人生における山登りには「恩師」の存在が欠かせないことに気付かされます。

弁護士を目指したきっかけは、高校生のときに参加したジュニアロースクール（JLS）で、初めて弁護士とお話したことです。迷いや不安を抱える人の話をよく聴き、専門的知見から問題解決に向

けて尽力する姿は、進路や友人関係で悩んでいた私にとって印象的でした。そこからの山登りは思っていたよりも険しく、新型コロナの影響で史上初めて司法試験が延期となり、大学や図書館は閉鎖、友人と会う機会も遮断され、試験実施日が確定しない中での勉強を余儀なくされました。「普段の苦しい練習は、本番でひと踏ん張りすれば想像以上の底力を出せるようにするためのものだ」という高校時代の恩師の言葉を思い出し、勉強を続けました。私の合格を自分事のように喜んでくださったのは束の間、若くして恩師の闘病生活が始まります。今度は私が応援する番と思い、修習地の北海道から四季の景色をメールで病室に届け、恩師は必ず弁護士バッジを直接見ると約束してくれました。

## 誰かの道標になること

弁護士となるきっかけを与えてもらったように、私も誰かのきっかけになればと思い、法教育委員会の出張授業やJLSに参加させていただいています。子どもたちが「なぜ弁護士になったの?」「どんなところが楽しい?」など、素朴な質問をしてくれるので、立ち止まって自分を振り返る良い機会

にもなっています。

偶然にも高校恩師の母校で出張授業した日を最期に、弁護士バッジを見てもらうことは叶わなくなっていました。恩返しはいつまでもできるわけではない、できるうちにできることをしようと、このときから思うようになりました。

## まだまだ続く山登り

高校恩師、弁護士を目指すきっかけをくれたJLSの先生、法律実務家の第一歩を指南してくださった司法修習の指導担当弁護士、企業人・法務部員としての成長をサポートしてくださる上司・先輩など、有難いことに多くの恩師が山登りの路にいてくださっています。弁護士3年目が終わろうとしています。いつか私も誰かの道標になれるよう、様々な山を、一步一步登っていきたいです。

\* \* \* \* \*

来たる3月の24日は「恩師の日」です。人生の中で師と仰ぎ、「恩師」と呼ぶ人に、お礼をする日とされています。叶うのであれば直接、叶わないのであれば心の中で、恩師に会いに行かれてみてはいかがでしょうか。

